

②浸透させようとする濁水の濁度（発生源対策後の表流水の濁度）

事業実施区域内の切土・盛土の区域は、図-6.1.1(14)に示すとおり、切土区域64.8ha、盛土区域77.2haである。切土区域は、琉球石灰岩が12.0ha、トムル層が52.8haであり、土質柱状図によると、琉球石灰岩区域には、地表面に石灰岩の風化土が約50cmあり、その下は石灰岩である。また、トムル層の区域は、風化した表土が約60cmあり、その下は岩となっている。

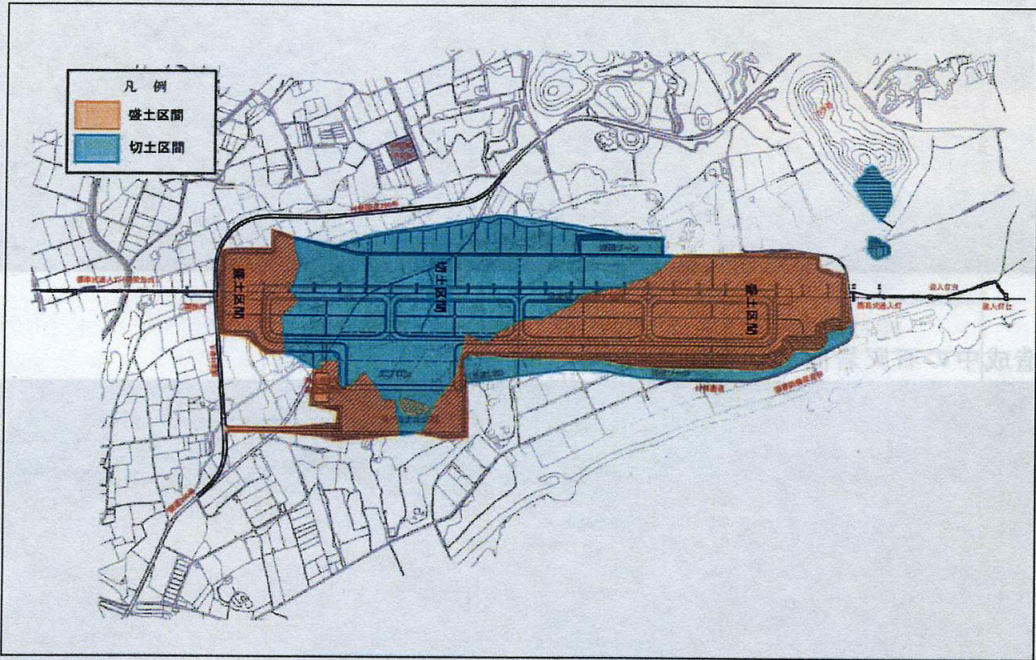


図-6.1.1(14) 切土・盛土の区域

表土は切土、盛土工事の前に除去し、現場内にて適切に保管するとともに、降雨時の流出防止対策を万全に講じ、着陸帯や盛土・切土法面の緑化の客土として活用する。他空港での造成工事の事例を図-6.1.1(15)に示す。

表土を除去した後、琉球石灰岩とトムル層を切土して、盛土区域に流用する。

工事区域には、表土を除去した後は、高濃度の濁水の発生の原因となる赤土等はなく、岩だけである。濁水の原因となるのは、岩盤の切土の切削時や盛土の転圧時に発生する石粉だけである。

降雨初期の表流水はやや高い濁度が発生するが、濁りの原因となる石粉が洗い流されることから、時間の経過とともに、濁度は次第に低下する。

このように、切土、盛土工事に伴い工事区域から継続して高濃度の濁水が発生することはない。

以上のことから、琉球石灰岩やトムル層地盤において通常は、大雨の時に発生する表流水の初期濁度は与那国空港滑走路拡張整備事業の事例から600~1,000mg/L程度と考える。